現代日本の政治と行政　予習プリント

第１０講：５５年体制からの移行
―その１：変容期　（福田・大平政権）

はじめに：三木の退陣＝自民党は安定多数を失い、「５５年体制」からの移行を模索へ
→保革伯仲状況の中で、野党側に譲歩することによる秩序の安定化への転換

１，福田内閣の発足（７６年１２月）
「ポスト三木」への話し合いで、福田が自民党総裁に（次は大平、という約束）
→そのスローガンは「　　と　　」・初の「　　修正」
＋懸案事項の処理：自民党総裁選への予備選挙制度導入
＝７７年７月の参議院選挙でも、何とか自民過半数を維持へ

２，福田政権下の施政
福田内閣＝「懸案処理内閣」として他の政治課題にも取り組む
→１）独占禁止法の改正：競争回復のための規定強化へ
２）　　条約の締結（７８年８月調印、同年１０月発効）
３）有事法制のための準備作業開始
＋「　　法制化」の閣議決定（大平内閣下の７９年６月に法制化）
４）「行政改革」の必要性を確認

３，大平政権への移行
７８年１１月の自民党総裁選で、全自民党員参加の「　　」実施・福田敗北
→福田は本選挙を辞退し退陣・大平総裁・内閣が誕生（池田派の宏池会系列）
＝大平内閣のスローガンは、「信頼と合意の政治」・「和の政治」
その下で、７９年初頭から原油価格値上がり：　　勃発
７９年９月に解散し、１０月総選挙へ

４，増税選挙と「４０日抗争」
大平首相：国債発行残高の累積の中で、財政再建のため「　　」導入を提起
→総選挙の結果、自民は再度公認候補の当選者数が過半数割れ：首相の責任問題へ
＝「４０日抗争」と呼ばれる党内抗争の末、史上最低得票で大平首相再選
＋野党側：社会・公明・民社で「連立政権構想」の可能性追求へ

５，８０年の衆参同日選挙
８０年度予算案審議の中で、「大幅修正」を受けて予算案は可決される
→社会党が内閣不信任決議案を提出、自民内党内抗争の再発の結果、可決される
＝「　　解散」：史上初・参議院議員選挙との同日選挙となる
→選挙戦最中に大平首相急死・衆参両院で自民圧勝、鈴木政権へ